



## 井上校長のおもしろくてためになる 「病気の授業」開講！

デンタルハイジーン BOOKS  
 井上校長の全力講義

口の中の病気と口に症状が現れる体の病気がわかる本  
 井上 孝 著

B5判/104頁/定価 4,950円 (本体 4,500円 + 税 10%) / 医歯薬出版 (2025年9月)

本書を初めて手に取ったとき、ずいぶんと長い書名だな、と思いました。しかし、本を開いて納得。前期 15 講「口の中の病気の授業」と後期 12 講「口に症状が現れる体の病気の授業」を通して、まるで楽しい講義を受けているような気分になる、書名そのままズバリの本でした。

皆さんのなかにも、国家試験受験のころ、病理学が苦手で困った方は多いのではないのでしょうか。かくいう私自身も学生時代、病因論について教科書を 2, 3 ページめくっただけで、「なんかおもしろくない」と本を伏せた経験があります。その後、晴れて歯科衛生士として勤務を始めたころは、グレーシーキュレットの使い方やシャープニングのセミナーを張り切って受講しましたが、病理学などの基礎系の講習会には、まったく関心がありませんでした。

しかし、担当する患者さんが増えるにつれて、学生時代に病理学をもっとしっかり身につけておくべきだった、組織・発生学を勉強しておけばよかった、と反省する機会が多くなりました。本書の前期 15 講は「たとえ」や「イラスト」が豊富で、当時の勉強不足をわかりやす

く補ってくれます。

長期 SPT 中は、患者さんの全身にもさまざまな変化が現れます。近年、日本歯周病学会学術大会で歯科衛生士のポスター発表を見ていると、同じ歯科衛生士が初診から 10~20 年担当している患者さんの SPT 症例はもはやあたり前で、50 年間にわたる長期症例も散見されるようになりました。これだけの長期症例となると、歯科衛生士が先輩から担当を引き継いだり、主治歯科医師が 2 代目だったりするでしょう。

患者さんの口腔内を見て、「前回の SPT 時となんか違うな」と違和感をもった経験のある歯科衛生士は多いと思います。そこで患者さんに聞くと、数カ月間に思いがけぬ大病で入院していた、という場合があります。後期 12 講では、マンガと写真で「前回と異なる違和感」を読み解く視点について学ぶことができます。

臨床に出てから基礎系を学ぶことは、学生のころより楽しく、そして身につくことは間違いありません。本書は、臨床に邁進する歯科衛生士にとって、心強い 1 冊になるはずです。